



カザフスタン・
首都アスタナ。

圧倒的支持率を誇る大統領の手形に率先して手を乗せるカザフ人

セントペテルブルクとは初対面の人との接し方が全く違います。(ロシア人は、最初は冷たい印象を与えますが、一度その人に入り込むと途端に非常に親切になる傾向があります。)

また、グルジアで非常に印象的だったのは、世代間のロシアに対する意識の違いです。興味深いことに、ロシアに対しての中年層以上と若年層とのロシアに対する印象が180度違ったのです。ソ連時代にロシア人とは同志の間柄だった中年層以上は、現政権の親米・反露路線について「最近の関係悪化は国家レベルの問題に過ぎず、一般人はお互い近い間柄にある」と流暢なロシア語で語っていました。それに対して、アメリカを中心とした西欧文化が浸透している若者世代はロシアという単語を聞くだけで明らかに嫌な顔をしていました。記憶に新しい2008年のロシアによるグルジア“侵攻”の影響もあるでしょう。尚、私が出会った若者達は、英語や独(仏)語と共にロシア語も学校で習ってはいるものの、ロシア語はほとんど話せませんでした。

4. カザフスタン、ウクライナの例 — 親ロシア —

もちろん、旧ソ連圏全てがこの様にロシアから離れようとしていくわけではありません。例えば、中央アジアに位置するカザフスタンは現在でもロシアと近い距離を保っているといえるでしょう。同国の半数以上を占めるカザフ人は、日本人をはじめとしたアジア人と顔つきが似ています。カザフ語の他ロシア語も同国の公用語であり、少々アクセントの違いはありますが、若者もロシア語を流暢に話します。書店に並ぶ本のほとんどもロシア語です(そもそもカザフスタンは遊牧民族で、ソ連の建国前まで自分の文字を持っていなかった背景もあります)。また、

服部 祐也(はっとり ゆうや)

ロシア連邦・サンクトペテルスブルグ国立大学留学中

2003年4月早稲田大学政治経済学部入学。2005年9月～2006年6月アメリカ合衆国 California Polytechnic State University San Luis Obispo 留学。2007年9月早稲田大学政治経済学部卒業。2008年4月より総合商社勤務。現在、ロシア語研修生としてサンクトペテルスブルグ国立大学に留学中。



ロシア・ベラルーシと三国での関税同盟を結ぶなど経済的にもロシアと強いつながりがあります。スーパーで売っている商品もロシアで見るものとあまり変わりません。

また、最近親露政権が誕生したウクライナも、再びロシアへの歩み寄りを強めています。元々ウクライナ人とロシア人は人種的にも近く、言語も似ていますが、現在の大統領は同国の公用語としてロシア語を導入しようとしています。ただし、欧州に接する同国西部では親欧反露の動きが強く、同国の方向性については事実上世論が二分されています。

おわりに

— もはやひとくくりには出来ない地域、旧ソ連 —

20年前まで一つの国であった旧ソ連。世界的には今でも同地域を「旧ソ連圏」または「CIS(独立国家共同体)圏」とひとくくりにして呼んでいる場合が多いですが、旧構成各国は独立後、それぞれ違う方向へ歩みを進めています。専門家の一人が「旧ソ連時代の人々についてはある程度語ることが出来たが、今の若者世代はよくわからない」と頭を抱えていましたが、このような状況下で育っている同地域の若年層は確実に各国の方向性に色付けられており、もはや一様ではありません。こうした中、今までの固定概念を盲信するのではなく、今を生きる彼らとの交流を通して今何が起きているのかを肌で感じ、ロシアをはじめとした旧ソ連諸国の方向性を注意深く観察することが、今後のこの地域をより良く理解する方法ではないか、と考えます。

ロシア語という新しい言語を身に付けることにより、今まで意識すらしてこなかった未知の世界・旧ソ連圏という新しい世界に足を踏み入れることができています。そこには私が知らなかった世界があり、多くの人々が日常の生活を営んでいます。言語は新しい世界を切り開く鍵となることをつくづく認識させられています。

一年半の語学研修生活も2カ月を残すのみとなりました。残りの日々を全力で生活し、旧ソ連圏でのビジネスという新たな世界を切り開く糧としていきたいと思います。

(尚、本記事の見解は筆者が勤務する企業の見解とは一切関係無く、個人の考えを述べたものである事を念の為に申し添えておきます。服部)

服部君の前のエッセイは、下のサイトでお読みになれます。
www.infoe.com/IMZ/WASEDA/WSD-List-1.htm



語学研修で訪れたロシアですが、旧ソ連の文化・社会全般について、服部くんは肌で学んでいます。ほんとうに貴重な経験です。服部くんは1年間のアメリカ留学で身につけた複視眼的思考法をロシアでも発揮して多くを学んでいます。海外子女の将来の姿です。